

大学生の漫画好きの原因は、漢学力が弱いから

書物は正に宝の山だと思います。とりわけ、古典は宝の山です。どんなに多くの人が、いくら掘り取ったところで、決して尽きることのない宝の山です。この宝を掘ろうともしないのはそのすばらしさを知らないからに違いありません。

大学生がほんものの書物を読まないのは、そういう読書の楽しさを知らないからに違いないと思います。そして、その読書の楽しさを知らない理由は、読む力が弱いからだと思います。

足の弱い者は、せっかく宝の山に足を踏み入れても、すぐに坐り込んでしまって宝を手にする事ができないように、読む力の弱い者は、書物を読み通すことが出来ず、従って、その神髄を理解することができるはずがありません。

読む力とは、何か。それは勿論漢字を読む力のことです。漢字かな混り文とは言うものの、主要な概念を表わしているのは漢字ですから、漢字が読めないことには、書物が読めないのは当然です。

幼稚園で漢字教育をしている所では、必ず次のような話を聞きます。

それは母親の声です。「こちらでお世話になっております子供の上に年生の兄(姉)がおります。この子に世界名作選を読ませたいと思い、買ってやったのですが、少しも読もうとしません。読むのは漫画の本ばかり。ところが、下の方は漢字教育のお陰で、漫画など見向きもしないで、兄の世界名作選の方を読むんです……」

子供というものは、よく出来ることはきりもなくやりたがりますが、うまく出来ないことは決して進んでやろうとはしません。漢字がよく読める子が本を読みたがり、漢字の読めない子が本を読みながらないのは、当然のことです。今の大学生が学術書を読まないで、漫画を喜んで読むのは、漢字力が弱いためだと考えられます。